

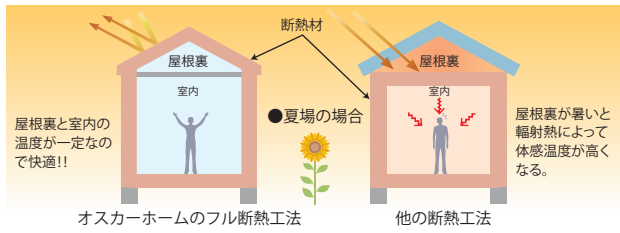
環境や省エネを考えた

「断熱性」「遮熱性」

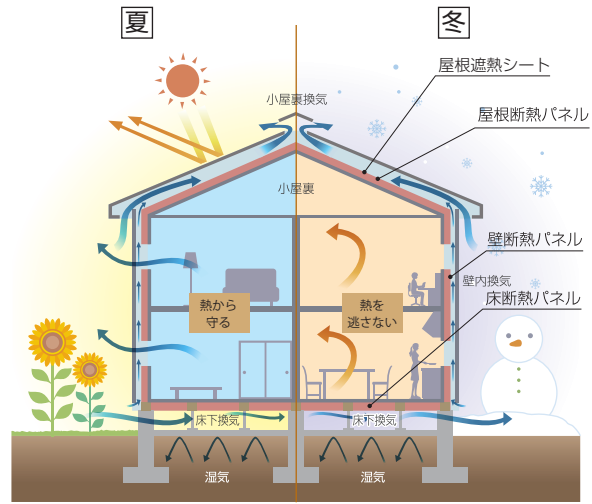
フル断熱工法が標準仕様

夏は涼しく、冬は暖かい オスカーホームのフル断熱工法

当社の住宅は、屋根・壁・床をパネル化し家全体に断熱材を施工する「フル断熱工法」が標準仕様です。一年中冷暖房の熱が逃げにくく、部屋間の温度を一定に保つので、急激な温度差によって発生するヒートショックから身を守ります。



断熱施工図



屋根断熱：吹き付け110mm
壁断熱：グラスウール

屋根は110mmの吹き付け断熱を施工(熱伝導率0.038W/m・k)、壁はハウスロンプレミアグラスウール16K:厚み/90mmのグラスウールを採用。グラスウールは変形や劣化に強い特徴があり、木材の伸縮にも対応し、長期的なスパンで断熱性能が落ちにくい特徴があります。さらにガラスが主原料のためシロアリの被害もほとんど受けず安心です。



※写真はイメージです



高性能樹脂窓
APW® 330

熱貫流率
1.56※
W/(m²·K)

※窓の熱貫流率



サッシ YKK APW330

【樹脂】+【Low-E複層ガラス】で
実現した国内最高レベルの断熱性。
冷気や直射日光に負けない、快適な空間が生まれます。

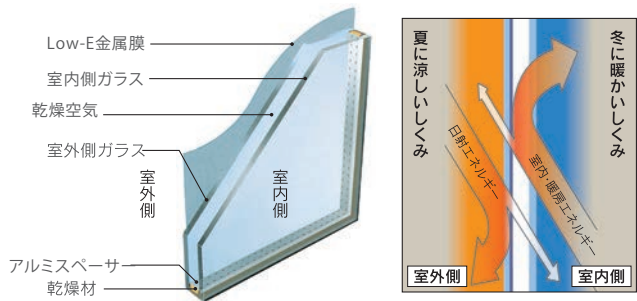
住まいの中で、もっとも熱が逃げやすいのが窓。

2枚のガラスの空気層とガラス内側の金属コーティングで熱の伝わり方を軽減し、1枚の単体ガラスの約4倍の断熱効果を発揮します。また、Low-E複層ガラスは、太陽の熱を約60%もカットするので、冷暖房の効果を高めます。さらに、スタイリッシュで使いやすいデザインになりました。

【コーナーから凹凸をなくし、見た目の美しさにこだわりました。

溶着部分を精密にコントロールする、YKK独自の樹脂溶着技術により溶着部をフラットに仕上げました。

■Low-E複層ガラス(遮熱タイプ)



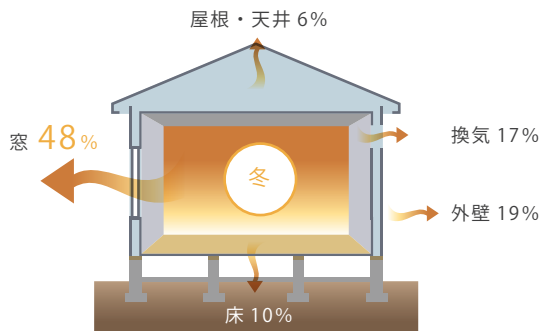
■ガラスの断熱性能

ガラスの種類	熱貫流率 (W/ m ² K)
板ガラス	6.0
ペアガラス (空気層6mm)	3.3
ペアガラス (空気層16mm)	2.7
遮熱ペアガラス (空気層6mm)	2.5
遮熱ペアガラス (空気層16mm)	1.4

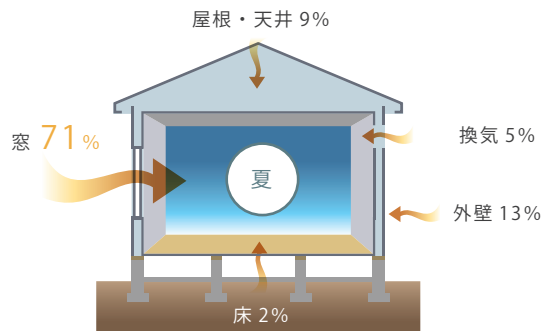
サッシに断熱性能が求められる理由

家の中で最も熱が移動するのが開口部です。夏は70%以上も窓から熱が侵入します。

サッシの断熱性能を上げるほど、光熱費のメリットが大きくなります。



冬の暖房時の熱が外部に損失する割合



夏の冷房時熱が外部から侵入する割合

出典:樹脂サッシ普及促進委員会「快適窓学」より